都城工業高等專	門学校	開講年度	和03年度 (2	021年度)	授	受業科目 実務事	実習			
科目基礎情報										
科目番号	0003			科目区分 専門 / 必修						
授業形態	実習			単位の種別と	単位数					
開設学科	物質工学専攻			対象学年		専1				
開設期	前期			週時間数 2						
教科書/教材 担当教員	清山 史朗									
到達目標	ин хи									
1) 規定の期間に与えら 2) 規定の様式に基づき 3) 部外者に対しても分	宇習報告書を	什上げる	 行う							
ルーブリック										
	理想的想	な到達レベルの目安 A	標準的な到達	レベルの目安 B	未到達し	バルの目安 C	(学生記入欄) 到達したレベルに○をする こと。			
評価項目1	務を行い	朝間に与えられた実 ハ、技術者としての を理解する。	規定の期間に 務を意欲的に			間に与えられた実	A • B • C			
評価項目2	規定の	習の目的を理解し、 様式に基づき実習報 仕上げる。	規定の様式に告書を仕上げ	基づき実習報る。	実習報告	書を仕上げる。	A • B • C			
評価項目3	の目的を	こ対しても実務実習 を反映させた分かり プレゼンテーション	部外者に対しても分かりや すいプレゼンテーションを 行う。		部外者に対してプレゼンテ ーションを行う。		A • B • C			
学科の到達目標項目	目との関係									
学習・教育到達度目標。 JABEE b JABEE c JAB			教育到達度目標	票 C 学習・教育	到達度目	l標 D				
教育方法等	LL a skibel (	C SABLE I								
概要	専攻に即した	こ本校近辺の企業ある - 関題意識を与って物	いは研究所なる	ビで実務訓練を	行うこと	により、開発技術を	者としての心構えや自発性を 学習する			
授業の進め方・方法	本実習は、これまで修得した材料工学、有機合成、高分子合成、物理化学、化学工学、生物工学、分析化学等の知識や 技術を生かし、それらを企業や研究所等で実際に実践活用する。受身で中途半端な態度で臨めば、研修先の企業や研究									
注意点	1) 規定の期間に与えられた実務を意欲的に行うこと 2) 実習時期は夏期休業中とする。 3) 実習先は物質工学に関連する企業や研究所とする。									
ポートフォリオ										
(学生記入欄) 【理解の度合】理解の原 (記入例) ・前期中間試験まで ・前期末試験まで	ファラデー <i>0</i> :	記入してください。 D法則、交流の発生に	こついてはほぼ	里解できたが、	渦電流に	ついてはあまり理り	解できなかった。			
(記入例	   【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。   (記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。   ・前期中間試験 点数: 総評:									
・前期末試験 点数	汝:	総評:								
【総合到達度】「到達目標」どおりに達成することができたかどうか、記入してください。 ・総合評価の点数: 総評:										
 (教員記入欄) 【授業計画の説明】実施		 してください。								
【授業の実施状況】実施状況を記入してください。 ・前期中間試験まで:										
・前期末試験まで	:									
【評価の実施状況】総合評価を出した後に記入してください。										
授業の属性・履修」	 上の区分									
□ アクティブラーニン		□ ICT 利用		□ 遠隔授業第	付応	□ ∌	実務経験のある教員による授業			

授業計画			1				1				
週				授業内容			週ごとの到達目標				
		1週		授業計画の説明 実務実習 1			授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 企業の生産工程あるいは研究所の研究室において、担 当者の指導の下で、物質工学に関連する生産技術や研 究の実務にあたる。				
		3週	]	実務実	€習 2		企業の生産工程あるいは研究所の研究室において、担当者の指導の下で、物質工学に関連する生産技術や研究の実務にあたる。				
		4週	]	実務実	€習3		企業の生産工程あるいは研究 当者の指導の下で、物質工学 究の実務にあたる。	所の研究室に に関連する生	おいて、担産技術や研		
	1stQ	5週	1	実務す	€習4		企業の生産工程あるいは研究 当者の指導の下で、物質工学 究の実務にあたる。	所の研究室に に関連する生	おいて、担 産技術や研		
		6週	]	実務実	€習 5		企業の生産工程あるいは研究所の研究室において、担当者の指導の下で、物質工学に関連する生産技術や研究の実務にあたる。				
		7週	]	実務될	€習6		当者の指導の下で、物質工学 究の実務にあたる。	企業の生産工程あるいは研究所の研究室において、担当者の指導の下で、物質工学に関連する生産技術や研究の実務にあたる。			
前期		8週	]	実務実習7			企業の生産工程あるいは研究 当者の指導の下で、物質工学 究の実務にあたる。	に関連する生	産技術や研		
		9週	1	実務ま	€習8		企業の生産工程あるいは研究所の研究室において、担当者の指導の下で、物質工学に関連する生産技術や研究の実務にあたる。 企業の生産工程あるいは研究所の研究室において、担				
		10)		実務す	€習9		当者の指導の下で、物質工学 究の実務にあたる。	:に関連する生	産技術や研		
	2ndQ	113				作成のための資料整理 1	実務実習報告書の作成に向け、実習で得たデータの整理を行う。 実務実習報告書の作成に向け、実習で得たデータをま				
	•	13	_				とめる。   別に定める様式に従い報告書を作成する。				
		14)						実習の要旨を作成し、各自実務実習の報告内容を する。			
		15	週	実務実	実習報告の準備 かんしゅう しょうかい かいかい しょうかい かいかい しょう かいかい かいかい しょう かいかい しょう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅ	備 2	PowerPoint を用いて、各自	実務実習の報	告案を作成		
16週 実務実習幹				実務実	習報告会 実務実習の要旨を作成 自実務実習の報告を行			owerPoint を	用いて、各		
	アカリ=	キユ		学習	内容と到達			Τ	Γ		
分類			分野		学習内容	学習内容の到達目標  日本語と特定の外国語の文章を読み	- スの内容を忸怩できる	到達レベル 4	授業週		
						他者とコミュニケーションをとるた	4				
						正しい文章を記述できる。	'				
						他者が話す日本語や特定の外国語の 日本語や特定の外国語で、会話の目	4				
					ることができる。	4					
						円滑なコミュニケーションのために	4				
		汎用的技能 汎用的				円滑なコミュニケーションのための づち、繰り返し、ボディーランゲー	4				
						他者の意見を聞き合意形成すること		4			
						合意形成のために会話を成立させる  グループワーク、ワークショップ等		4			
						践できる。		4			
// ma 144						書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に 収集することができる。		4			
分野横断的 能力	汎用的			技能	能,汎用的技能	収集した情報の取捨選択・整理・分報を選択できる。	4				
						収集した情報源や引用元などの信頼 あることを知っている。	4				
						情報発信にあたっては、発信する内自己責任が発生することを知ってい	4				
						情報発信にあたっては、個人情報おあることを知っている。	4				
						目的や対象者に応じて適切なツール信(プレゼンテーション)できる。	4				
						あるべき姿と現状との差異(課題)をきる	4				
						複数の情報を整理・構造化できる。		4			
						複数の情報を整理・構造化できる。 特性要因図、樹形図、ロジックツリ ために効果的な図や表を用いること		2			

			グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・		
			合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	4	
			どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4	
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	4	
			事実をもとに論理や考察を展開できる。	4	
			結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現でき  る。	4	
			周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4	
			自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	4	
			目標の実現に向けて計画ができる。	4	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。 日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる	4	
			0	4	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	4	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	4	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	4	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	4	
			  チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	4	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	4	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	4	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内  での相談が必要であることを知っている	4	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	4	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	4	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に  負っている責任を挙げることができる。	4	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4	
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	4	
態度・志向 性(人間力)	態度・志向 性	態度・志向 性	キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4	
注(人间刀)	T±	11	これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困	4	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	4	
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	4	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	4	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己 の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	4	
			企業には社会的責任があることを認識している。	4	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	4	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界 の抱える課題を説明できる。	4	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	4	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	4	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	4	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動 を行った事例を挙げることができる。	4	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように 活用・応用されているかを認識できる。	4	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	4	
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき 能力」の必要性を認識している。	4	
			工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	4	
総合的な学	総合的な学 習経験と創	総合的な学	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	4	
習経験と創 造的思考力	習経験と創  造的思考力	習経験と創造的思考力	要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	4	
			課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	4	

		4							
			経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持 続可能性等に配慮して解決策を提案できる。 4						
評価割合									
	実習報告書	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計		
総合評価割合	25	25	0	0	0	50	100		
基礎的能力	5	5	0	0	0	30	40		
専門的能力	10	10	0	0	0	10	30		
分野横断的能力	10	10	0	0	0	10	30		